

ドラウの派閥

陰謀によって展開するセッティングでは、都市で政治闘争を行なう指し手の存在が何より不可欠だ。これらの派閥はプレイヤー・キャラクターをあるときは雇い、あるときは操り、あるときは彼らと敵対する。

メンゾベランザンでもっとも重要な派閥はドラウの名家だ。この章では代々都市を牛耳る六大名家、さらに特別な影響力を持っている独立勢力もその他の派閥として紹介する。この章には以下の項がある。

- **派閥を知る:**この最初の項では、派閥の解説で使われる用語や記号を説明する。
- **ベンレ家:**メンゾベランザンきっての家系で、何世紀も都市を支配してきた。
- **ドゥアーデン家:**ほとんどの家系は高名なドリット・ドゥアーデンの生家より速く隆盛し、また速く没落することもなかった。
- **フンズリン家:**この低位の家系は都市で行なわれている取り引きを多く支配することで力をつけた。
- **オブラドラ家:**この家系はサイオニックの素質、野心、そして果てしない残酷性が特徴的だ。
- **メラーン家:**低位の家系2つが連合し、より強い力を持った。
- **ゾララリン家:**このウィザードは重要な役割を担っているため、ゾララリン家は魔織の事件で鍵を握る指し手となる。
- **他の家系:**他の名家4つもついても、ここで簡潔に説明される。
- **ティア・プレシュ:**3つの校舎を持つメンゾベランザンの学園で、アラクティニリスではロルス女祭を、メレー・マグゼアでは戦士を、そしてソーサレではウィザードを養成している。
- **ブレガン・ダエルス:**ドラウの男性たちに率いられているにもかかわらず、この傭兵団は予想外の影響力を持っている。
- **ジャーズレド・チャウルシン:**彼ら暗殺者はドラウ社会の崩壊以外何も求めていない。
- **鞭打団:**ドラウと敵対する悪魔的なオークの集団で、彼らは力を得るためにアンダーダークに潜んでいる。
- **イリガクトの末裔:**世界中に工作員を潜ませているイリシッドの秘密結社。



